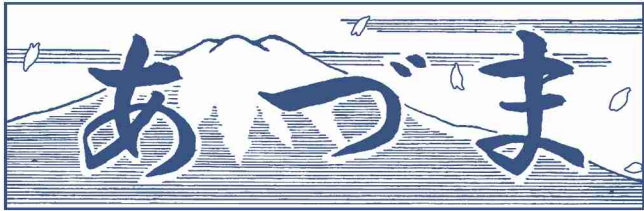


方面	令和4年度始動	(1面)
1師団	第1偵察戦闘大隊新編	(3面)
12旅団	第12高射特科隊改編	(4面)
1施設団	各駐屯地等工事	(5面)
関東補処	吉井弾薬支処総監初度視察	(5面)



令和4年4月25日 第1047号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「克己」

陸上自衛隊東部方面隊広報誌
発行所：方面総監部広報室
住所：東京都練馬区大泉学園町
専用線：8-37-2446

方面隊業務計画2次指示

部隊長等に対し総監企図を徹底



各部隊長等に訓示する総監

方面隊は3月8日朝、
震駐屯地において令和4
年度東部方面隊業務計画
第2次指示を実施した。

本会議では上級部隊の考え方や各事業の具体化について説明を行い、隷下部隊に対して総監企図の徹底を図った。

総監は訓示の中で、目まぐるしく変化する国内外情勢や、常態化した異常気象によりいつ災害が発生してもおかしくない国内の状況等を踏まえ、業務計画上のあらゆる分野に係る基本的な考え方や留意事項を述べるとともに、各人の心構え等についても指導し、皆で力を合わせて「強靱な東部方面隊」を創造する決意を示した。

方面隊は引き続き、あらゆる任務に即動し、これを持續し、完遂する強靱な部隊を創造して各種事態等への実効的な対応に万全を期す。



令和4年度始動

己に打ち克つ 強靱な東部方面隊を創造

新型コロナウイルス感染症が世界で猛威をふるつてから、はや2年。方面隊はその厳しい状況下においても持てる能力を最大限に発揮し、東京2020オリンピック・パラリンピックの式典等大会運営に寄与し、自衛隊観閲式を実施担任することにも、大規模接種会場を運営開始する等、令和3年度の任務を完遂した。

令和4年度に入り、国内外の状況は依然として厳しいものではあるが、われわれ東部方面隊の隊員は「克己」の精神を胸に誓い、「強靱な東部方面隊の創造」へ向け力強く前進する。



令和3年度方面総監感謝状贈呈式 方面隊への多大な功績に感謝

総監から感謝状を贈呈される受賞者

方面隊は3月26日朝、震駐屯地において方面総監感謝状贈呈式を実施し、功績の著しい個人及び団体に対し、感謝の意を表した。

受賞者には一般功勞、就職援護功勞、予備自衛官等雇用功勞及び自衛官募集功勞の各区分から48人が選ばれ、当日の式には36人が参加し、総監から直接感謝状が贈呈された。

総監は挨拶において受賞者への感謝の気持ちを表すとともに、今後も方面隊一丸となって任務にまい進する決意を語った。

贈呈式終了後、東部方面音楽隊による音楽演奏や広報センターの見学が行われ、受賞者は充実したひとときを過ごした様子であった。

各駐屯地に 新たな仲間が集結



営内班に到着した新隊員
(第1普通科連隊)



被服の採寸をする新隊員
(第117教育大隊)



3月25日から4月7日にかけて満開の桜の下、さわやかな春風とともに方面区内の各駐屯地に合計約2200人の入隊予定者が続々と着隊した。

期待を胸に入隊予定者は、これから同期と切磋琢磨しながら各教育隊で行われる教育訓練等を経て、一人前の社会人として、また自衛官として成長していく。



家族に見送られての着隊
(第30普通科連隊)



営内班に到着した新隊員
(女性自衛官教育隊)

音楽科職種練度向上施策 プロ奏者の教えを直伝

方面隊は3月21日から、地において隷下音楽科部
25日までの間、朝霞駐屯 隊に対して職種練度向上
の維持・向上を図った。

本施策は令和2年度か
ら楽器ごとに実施されて
おり、今回はトランペッ
ト、打楽器及びエレキペ
イスの各担当者に対して
部外講師によるレッスン
が行われた。新型コロナウイルス
ウィルス感染防止対策の
観点からテレビ会議シス
テムも活用したことによ
り、多くの隊員がその内
容を聴講した。

音楽隊が演奏任務を実



トランペットの指導を受ける隊員



エレキベースの指導を受ける隊員

日頃からの様々な活動に感謝 オピニオンリーダー感謝状贈呈式・継続委嘱状交付式

施する際の編成は、通常
30〜50人程度の中・大規
模の場合が多いが、さら
なる全体のレベルアップ
のためには隊員個々の演
奏能力向上が不可欠であ
る。そのため本訓練にお
いては、部外の第一線で
活躍するプロ奏者を講師
として招いて個人レッス
ンを実施することで、個
々の演奏能力に磨きをか
ける。



打楽器の指導を受ける隊員

は、より質の高い演奏を
追求することを目的とし
ている。
各講師からは姿勢や音



トランペットの指導を受ける隊員

方面隊は3月24日、朝
霞駐屯地においてオピニ
オンリーダー感謝状贈呈
式及び継続委嘱状を実施
し、オピニオンリーダー
活動を全うした功績に感
謝の意を表するとともに

の反映、方面隊施策への
助言及び情報発信による
幅広い協力者の獲得を目
的として、1任期2年、
最大2任期4年間にわた
り活動を行っている。令
和3年度は計45人がオピ
ニオンリーダーとして活
躍し、今回の式には15人
が参加した。
総監は感謝状や継続委
嘱状及び記念品を手渡す
とともに、日頃からの多
岐にわたる活動に対し感

謝の意を述べた。式の後
は、新型コロナウイルス
感染防止に留意しつつ総
監、幕僚長、幕僚副長と
の会食を行い、懇親を深
めた。



感謝状贈呈式の様子



記念品を手に総監と撮影

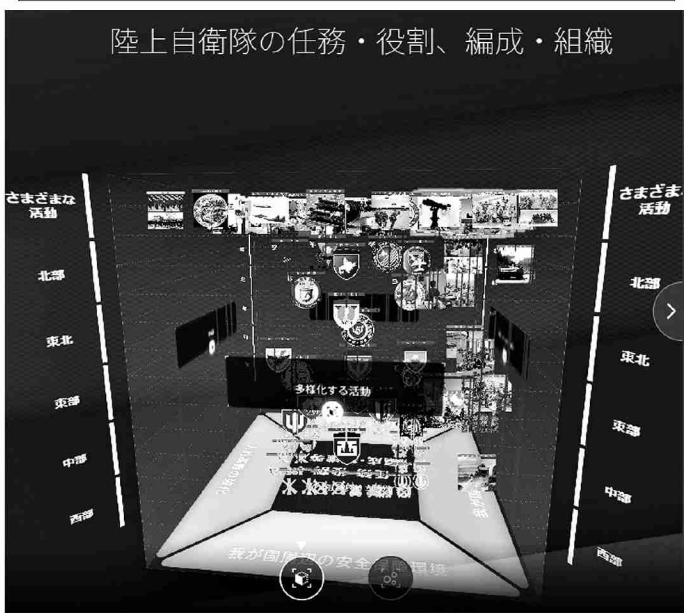


式終了後の記念写真

多面的鑑賞システム 「みどころキューブ」導入

広報センターに新システム

陸上自衛隊の任務・役割、編成・組織



「みどころキューブ」の画面

広報センターは4月1
日、新たな情報検索装置
である多面的鑑賞システ
ム「みどころキューブ」
を導入し、来館者の陸上
自衛隊への興味・関心の
喚起と理解の促進を図っ
た。
このシステムは陸上自
衛隊に関する様々な情報
をキューブ(立方体)状
の画像を用い、テーマ・
関係性などの多様な視点
から紹介できる鑑賞シス
テムである。
キューブを回転した
り、キューブの内側に入
るなどの操作により直感
的に関係性を把握し、立
方体の側面に表示される
テーマから様々な情報を
理解することができる。
今後、来館者数の拡大
につながっていくサービ
スとなることが期待され
る。



みどころキューブを觀賞する来場者

第1師団

1偵戦大朝霞で新たにスタート
1戦大・1偵60年の歴史に幕を閉じる



師団長(写真左)より隊旗を受領する第1偵察戦闘大隊長(写真右)



第1戦車大隊 隊旗返還式



第1偵察隊 隊旗返還式



第1偵察戦闘大隊の巡閲

第1戦車大隊及び第1偵察隊は3月15日及び16日、駒門駐屯地及び練馬駐屯地において、部隊廃止に伴う隊旗返還式を実施した。第1戦車大隊及び第1偵察隊は、昭和37年1月18日に第1管区隊が第1師団に改編された際、駒門駐屯地へ第1戦車大隊として、練馬駐屯地へ第1偵察隊としてそれぞれ配置された。創隊から60年を迎え、成完結式を実施した。



訓示する師団長

編成完結式において執行者(児玉師団長)は「編成・装備の効果的な運用」「家族を大切に」の2点を要望するとともに「首都防衛における偵察及び機動打撃力としての活躍を期待されているのが新編された偵察戦闘大隊。部隊新編の母体となった第1戦車大隊及び第1偵察隊の歴史と伝統を継承しつつ、新しい装備、新しい土地をして何より新しい仲間とともに、新たな歴史を刻んでいってほしい。我が国防衛の要は、首都防衛を担う我々第1師団であるが、その偵察と機動打撃力の中核となる偵察戦闘大隊の重責を自覚し、あらゆる隊務に精励することを期待する」と訓示を述べた。

3月17日には、新たに第1偵察戦闘大隊として朝霞駐屯地に配置された。新しい第1偵察戦闘大隊の初代大隊長は、第1戦車大隊長から引き継ぎ、徳永2佐が任命され、編成完結式を実施した。

感動の演奏を披露

練馬文化センターで定期演奏会

第1音楽隊(前隊長星野1尉)は3月3日、練馬文化センターにおいて第46回定期演奏会を行った。

演奏会は自衛隊に対する信頼感と親近感の醸成を図ることを目的として2部構成で行われ、第1部は星野隊長が作曲した「90式戦車の行進」機甲科職種隊員に捧ぐ」を演奏、第2部はアニメ



アルト・テナー・バリトンサクソフォンの演奏



「明日へ」を歌う綾3曹



最後の指揮を振る星野隊長



ピッコロとフルートの演奏

また3月11日に退官するため、本演奏会が最後となった星野隊長は「第1音楽隊長として上番して、観客の前で定期演奏会を出来たことを本当にうれしく思います。また、定年最後の演奏会を家族に披露することができたので本当に幸せです」と想いを述べた。

の歌声とともに東日本大震災復興応援メッセージソングとして「明日へ」、「Dear Mr. Jones」など幅広いジャンルの曲を披露した。客席の聴衆者からは大きな拍手が贈られ「コーンが湧きあがり「陽はまた昇る」「東京オリンピックマーチ」を吹奏し会場は大盛況であった。聴衆者からは「久しぶりに演奏が聴けて感動しました」、「自衛隊の皆さんの思いが伝わってきました」などの声が聞かれた。

最優秀賞は1戦大 椎原2曹
師団写真展示会で表彰

師団は3月7日、練馬駐屯地において「令和3年度師団広報写真展示会」の表彰式を実施した。本展示会は師団隷下部隊の広報写真を展示して、撮影技術の向上と隊員士気の高揚を図る目的で行った。本審査は部外有識者2人と師団長、副師団長、幕僚長の計5人による採点で行い、第1戦車大隊の車両行進を撮影した作品が最優秀賞に選ばれた。

- 受賞隊員は次の通り。
- 【最優秀賞】 第1戦車大隊 2曹 椎原 豊
 - 【優秀賞】 第32普通科連隊 3曹 竹井 彩
 - 第34普通科連隊 2曹 廣瀬 亮
 - 【佳作】 第1普通科連隊 3尉 松田 洋
 - 第1戦車大隊 1曹 比田井 竜平
 - 第1施設大隊 2曹 田崎 直哉
 - 【特別賞】 第32普通科連隊 3曹 堀 浩

最優秀賞



第1戦車大隊 2曹 椎原 豊
題:「群青」

第12旅団

12高射

対空火力の骨幹を増強 高射特科中隊から高射特科隊へ改編



旅団長から隊旗を授与される第12高射特科隊長 平尾 勝幸 2等陸佐

旅団は3月17日、相馬原駐屯地において、第12高射特科中隊から第12高射特科隊への改編行事を執り行った。

第12高射特科中隊は平成13年3月に、第12高射特科大隊（宇都宮）が改編された。

編成は、相馬原駐屯地へ移駐して今日まで旅団の防空任務を担ってきた。このたび21年の歴史に幕を閉じ、新たに師団防空情報処理システム（DAD S）を装備した第12高射特科隊として生まれ変わった。



敬礼を受ける初代隊長

旅団長は「第12高射特科中隊は旅団の作戦・戦闘に不可欠な防空戦力の中核であり、対空情報戦闘訓練を通じて旅団全般の対空戦闘能力の向上に努めるとともに、着実に旅団の任務遂行能力の向上に寄与してきた。（中略）改編後は、新装備への習熟や段階的・計画的な練成により早期戦力化を実現し、第12高射特科中隊の歴史と伝統を継承した。任務にまい進するさらなる強靱な部隊を目指して「要旨」と訓示した。

初代第12高射特科隊長を拝命した平尾2佐は「今まさに諸官とともに歴史のページを刻んでいることに興奮し身の引き締まる思いである。戦力化を図るに当たり求められることは『より組織的に戦う』ことである。そのためには機材がつかないだけでなく、人と人とのつながりも重要となる。これまでの良き伝統と魂を継承しつつ、ともに第12高射特科隊が刻む歴史を輝かしいものとするため諸官の先頭に立ち、挑戦していくことを誓う」と訓示を述べた。

第12高射特科隊は旅団の防空任務の核心として新たな歴史を刻みつつ任務にまい進する。

インド陸軍と共同訓練 30普通連がダルマガイディアンに参加

旅団は2月22日から3月14日までの間、対テロに係る戦術技量を向上させ、日本・インド両国の相互理解と信頼関係を促進して日印陸軍種及び両国の関係を強化し、インド太平洋地域の平和と安定を演練し、指導官としての識能を修得させた。

訓練に参加した30普通連窪田3曹は「戦術行動の選択肢を増やし空中機動能力の向上を目的に教育に参加し、それ以上のことを学ぶことができた。本訓練で得た知識、技能を常にアップデートし、日本の国防に貢献していきたい」と述べた。

一タカ州ベルガウムコマンドトレーニングセンター及びその周辺で、実動と射撃訓練からなる機能別訓練と総合訓練に区分して実施された。

各種訓練においては双方の展示説明、意見交換及び共同訓練が実施された。また文化交流を行い、両国の相互理解と信

旅団戦技（炊事）競技会

隊員に活力を与え 力を奮い立たせる給食を

旅団は3月8日・9日、相馬原駐屯地に於いて令和3年度旅団戦技（炊事）競技会を実施した。

本競技会は部隊の炊事要員の育成、炊事能力の向上を図るとともに、部隊の団結強化、士気高揚を図る目的で、部隊の規模により3つのグループに分けて実施された。

開会式において統裁官（旅団長）は「自己完結型の組織である自衛隊にとって、各種任務を遂行するに当たり、炊事は極めて重要である。また部隊活動の源泉であり、その良否は部隊の人的戦闘力に大きく影響を及ぼす。隊員に活力を与え、自ら任務達成にまい進しようとする



手際よく調理する第12偵察隊の隊員

力を振るいたたせるような給食を提供できるよう創意工夫を凝らし「栄養」「量」「味」「見た目の完成度を追求せよ」と要望した。

競技会は限られた時間、人員、食材、資器材等を用い、炊事長の適切な指揮の下、要員一人一人が自らの役割を理解し積極的に行動し、給食を提供した。厳正な審査の結果、Aグループは第13普通連隊、Bグループは第12偵察隊、Cグループは第12化学防護隊が優勝した。

空中機動指導官集合訓練

空中機動力を強化された旅団の矜持

旅団は1月28日から2月25日までの間、相馬原駐屯地、相馬原飛行場及び相馬原演習場において第13普通連隊長を担任官に令和3年度空中機動指導官集合訓練を実施し、旅団隷下各部隊から隊員21人が参加した。

本訓練は空中機動作戦に係る訓練指導能力、空中機動作戦を実施する小

部隊指揮官等（搭乗長、搭載統制班長及び着陸誘導班長）としての実員指揮能力を向上させ、空中機動作戦における各部隊の基幹要員を育成する目的で実施した。訓練では空中機動基礎、搭載・卸下、空中機動（指揮・緊急時の対応）、航空機誘導、空中機動後の行動（降着地域の確保・降着戦闘）及び訓練指導法な

旅団は空中機動能力を強化された旅団として、その能力を維持・向上させることにも、あらゆる任務を完遂できる隊員の育成に努める。



UH-60を使用した機外搭載訓練を演練する隊員



エキストラクションロープを使用した離脱訓練を実施する隊員

旅団は2月22日から3月14日までの間、対テロに係る戦術技量を向上させ、日本・インド両国の相互理解と信頼関係を促進して日印陸軍種及び両国の関係を強化し、インド太平洋地域の平和と安定を演練し、指導官としての識能を修得させた。

訓練に参加した30普通連窪田3曹は「戦術行動の選択肢を増やし空中機動能力の向上を目的に教育に参加し、それ以上のことを学ぶことができた。本訓練で得た知識、技能を常にアップデートし、日本の国防に貢献していきたい」と述べた。

令和3年度メディアトレーニング



丁寧に電話対応する新町駐屯地広報担当者

旅団は3月2日、管内各駐屯地において各駐屯地等広報担当者に対し令和3年度メディアトレーニングを実施した。

本訓練は民間の広報専門企業から講師等を招き、広報専門企業の有する知識、技能を駐屯地等広報要員に伝授し、電話対応等のスキルを向上させることにより、事案発生時の報道対応能力を向上させる目的で対応訓練（電話問い合わせ対応）及び広報専門企業による講義を実施した。

各駐屯地等広報担当者は、事前

電話対応等のスキルを向上

各担当者は「一、不測の事態等が発生した場合においても、誠実に対応し報道等対応に不備がないよう心掛けている。



市街地戦闘における掃討要領の意見交換



母国紹介による文化交流

30普通連 井畑2尉は「実戦経験を有する印陸軍との訓練及び各種交流を通じて、友好関係の強化に携われたことは光栄です」と帰国後に述べた。

に示された課題に基づき準備した資料を頼りに、広報専門企業が演じる記者からの厳しい問い詰めにも懇切丁寧に対応した。またテレビ会議方式で実施された広報専門企業による講義を受講し、電話対応等の着眼を修得するなど、その知識・技能に

母国紹介による文化交流

第1施設団

各駐屯地等において工事を実施
勤務環境を整備し作戦基盤を充実

第1施設団は古河、大宮駐屯地及び柏訓練場において、各種工事を実施した。作戦基盤の充実を図るため、各種教育訓練を実施した。



古河駐屯地油脂類屋内貯蔵庫の建替工事



内貯蔵庫の建替工事を支援した。施工図に基づく配筋作業及びコンクリート打設作業の後、シートによる保温・養生等により、適切な品質管理を実施した。また101施設団は3月1日から5日までの間、柏訓練場で需品学校が実施する柏訓練場既設建物（旧警衛所）取壊・解体及び敷所設置のための基礎コンクリート打設工事を支援した。

大宮駐屯地駐車場の整備

第306施設団は3月15日から31日までの間、大宮駐屯地業務隊が実施する駐車場整備を支援し、地盤掘削・表層工事・路盤工事を実施した。



集合訓練「部隊格闘指導官」



陸士特技課程「部隊暗号電信」

個人の能力を向上せよ
各種教育訓練に邁進

施設団は個人の能力向上を図るため、各種教育訓練を実施した。1月10日から3月11日までの間、高田駐屯地において第5施設群担当により、格闘指導官訓練成

令和3年度第5回団集中野営



爆破訓練（壕処理）

施設団は2月20日から25日までの間、東富士演習場において第5回団集中野営を実施した。部隊装備火器射撃及び爆破訓練を実施し、練度を向上させて作戦遂行能力の向上を図った。

QR codes for social media: YouTube, Twitter, and a follower collection QR code.

関東補給処

吉井弾薬支処 総監初度視察
隊務運営状況を報告

関東補給処吉井弾薬支処は2月25日、吉井分屯地において森下総監の初度視察を受けた。本受察は吉井弾薬支処の隊務運営状況及び各種



総監に施設の概要を報告する吉井弾薬支処長（写真右）

分屯地司令（吉井弾薬支処長）等の出迎えを受け、処長による隊務運営状況に関する概要、次いで支処長による部隊概要及び兵站支援状況等に



総監訓示を受ける吉井弾薬支処隊員

最後に指揮官懇談を実施して分屯地を後にした。吉井弾薬支処は本受察により隊務運営の資を得るとともに、引き続き支援任務にまい進していく。

「吉井弾薬支処が神田1佐を核として、支処長要事項である『積極支援』すなわち部隊のニーズに柔軟に対応し得る支援基盤を確立し、各種事態にも即応して任務を遂行し得る練度を向上させ、全隊員が向上心と責任感をもって任務に取り組んでもらいたい。ここに所在する全ての諸官が、あらゆる状況に適切に対応したバランスを保持しつつ『強靱な東部方面隊の創造のために』一丸となつて、ますます職務に精励することを期待する」

令和3年度らっぱ手養成教育
練成の成果を音にのせて

関東補給処は1月17日から3月18日までの間、霞ヶ浦駐屯地において令和3年度らっぱ手養成教育を実施した。本教育は特技「初級らっぱ」を付与することを目的に行われ、関



東処所属隊員以外に航空学校霞ヶ浦校、第101全股支隊及び第103補給大隊の隊員6人を含めた20人が参加。被教育者は吹奏に必要な唱譜聴音、基本奏法及び体力向上運動等多岐にわたる課題に取り組み、吹奏技術習得を目指し日々練成に励んだ。

陸曹候補生履修前教育

未来の分隊長 一同に集結



戦闘訓練中の陸曹候補生



同期と協力して掩体構築



四周を警戒し徒步行進

関東補給処は2月21日から3月11日までの間、霞ヶ浦駐屯地において第14期陸曹候補生履修前教育を実施した。

本教育は陸曹候補生としての資質及び課程履修に必要な共通の識能と基礎体力を充実させ、入校準備の万全を期すること

教育は新型コロナウイルス感染症防止対策を講じつつ行い、陸曹候補生は素養試験を皮切りに防衛法制、武器訓練、分隊教練、戦闘訓練及び指導法等を学び、ま

を目的とし、関東補給処所属隊員（総務部、火器車両部、誘導武器部、化学部、航空部、松戸支処、吉井弾薬支処、富士燃料出張所）10人のほか、航空学校霞ヶ浦校所属隊員4人を含めた14人が参加した。

検定に臨む被教育者が目的とし、関東補給処所属隊員（総務部、火器車両部、誘導武器部、化学部、航空部、松戸支処、吉井弾薬支処、富士燃料出張所）10人のほか、航空学校霞ヶ浦校所属隊員4人を含めた14人が参加した。



膨大な情報を管理する隊員



書類の山と格闘する隊員

会計隊 作戦目的達成のため 各会計隊で日々邁進

東部方面会計隊は各駐屯地において、年度末における会計支援任務を継続中である。

各部隊の特性に応じた各種の調達要求を受け、精査し、入札等において契約相手方を決定する。

基ついて支払いを実施する。また定期異動等に伴う赴任や、入札等による旅費を正確に処理し、出納整理期間である4月末までに給与・調達分も含めた令和3年度すべての支払いを完了し決算する。その後、会計検査院へ提出する支払証拠書類を作成・点検し、送付する6月までの間、会計隊としての「年度末」は続くことになる。被支援部隊ひいては方面隊の作戦目的達成のため、隊員一人一人が膨大な業務を迅速に処理しつつ、日夜業務に励んでいる。



座学でお互い切磋琢磨する隊員



障害走に取り組む隊員

後支隊 陸曹候補生の識能を向上 入校に向け24人が参加

東部方面後方支援隊は2月27日から3月10日までの間、朝霞駐屯地において第141期・第101期(女性自衛官)陸曹候補生及び一般陸曹候補生課程履修予定者24人に対し、令和3年度第3回陸曹候補生課程履修前教育を実施した。教育は第104全般支援大隊が担任し、素養試験・体力測定をはじめとし、精神教育、服務教育、基本教練、戦闘訓練等を実施した。また教育終盤において、20キロ行進、斥候、分隊の攻撃等、教育の集大成となる総合訓練を実施し、候補生たちは一致団結し、積極的に教育に取り組む、陸曹候補生課程の履修に必要な識能の向上を図った。教育に参加した東部方面輸送隊、富島候補生は「今回の教育において、主に通の大切さと、同期の大切さについて改めて実感しました。教育間、時間に追われる毎日、自分の時間を作るのに苦労しました。その中で自分のことだけでなく、周りを見て困っている同期を助け、時には同期に助けられ、皆の力でこの教育を終えることができました。また曹候補生課程入校に向け、新たな課題を見出すことができたと所感を述べた。



総合訓練における分隊攻撃

混成団 48普連が遭遇戦 隊員の基本的行動を演練

第48普通科連隊は3月2日、相馬原演習場において3月連隊統制訓練を実施し、攻撃における小部隊の基本的行動及び隊員各個の基礎的戦術動作の練度向上を図った。

本訓練は令和4年度の訓練科目である攻撃について、当初座学による認識の統一を図り、その後、



警戒下での補足命令



敵方に射撃する隊員

交戦訓練装置を使用し、遭遇戦対抗方式により小部隊の戦術行動(SUT)について演練した。訓練当日は、約500メートル×200メートルの林内で、7人の陸曹・陸士からなる1コ分隊同士の遭遇戦が行われた。各分隊は分隊長の指揮の下、偵察を実施するとともに命令下達・戦闘指導を実施し、戦闘に臨んだ。戦闘間、逐次変化する戦況に応じ、分隊長・組長のみならず隊員に至るまで状況判断に努め、隊員相互の躍進、地形・地物等を活用しての射撃等、目標奪取のための戦闘を実施した。

参加した隊員は、実戦的な状況下において各人の練度を向上させることも、状況判断の重要性を認識して、今後の訓練の資を得ることができた。

東部方面システム通信群 創隊39周年記念式典



式典終了後の集合写真

東部方面システム通信群は3月29日、群創隊39周年・改編2周年記念式典を実施した。式典は群OB会長、東の方総監部防衛部システムとして挙行了。群は昭和58年3月に、当時市ヶ谷駐屯地に所在していた第101基地通信大隊を基幹とする東部方面通信群として発足した。その後、朝霞への移駐、野外通信システム導入、第302システム防護隊新編・編合変え、東部方面システム通信群への改編等、8度の新・改編を経て現在に至っている。昨年度は即応態勢を維持しつつ、各種

通信課長及び関係部隊長の臨席のもと、3年ぶりに群所属の全部隊が参列して挙行了。群は今年度も、支援いただいた関係者の方への感謝の気持ちを忘れず、様々な訓練・支援を完遂しつつ、あらゆる任務を「作戦」と捉えて「首都防衛」の一翼を担う部隊として、国民の負託に応えるべく、全隊員が一丸となり作戦遂行能力を向上させていく。

栃木地本 公式キャラクター・ロゴマーク選出 デザインコンテスト表彰式

自衛隊栃木地方協力本部は3月28日、本部庁舎にて「栃木地本デザインコンテスト表彰式」を開催した。

「キャラクター部門で入賞した大貫さん(右)とロゴマーク部門で入賞した寺坂さん(左)」



栃木地本キャラクター「とちまも3兄弟」
左からかい・りく・くう



白根山や鬼怒川をモチーフしたロゴマーク

機会に県民の皆様に対し、より一層自衛隊を身近に感じてもらいたいという思いから、栃木地本公式キャラクター及びロゴマークを一般公募した。その結果、キャラクター部門では宇都宮文星女子高等学校2年の大貫真緒さん、ロゴマーク部門では

県内在住の寺坂千尋さんの作品が、最優秀賞に選ばれた。公式キャラクターは栃木県名産のいちごや日光東照宮の三猿をモチーフにし、公式ロゴマークは自然豊かな栃木県を表現するため、日光白根山や男体山、鬼怒川を栃木地

方協力本部の文字に見立てて描かれている。受賞した大貫さんは「栃木県がイメージできて自衛隊に親しみを持ってもらえるように、できるだけかわいいうキャラクターとできるように作成した」と笑顔で語り、寺坂さんは「栃木に住んで9年になるが、栃木県の魅力表現したかった」と作品に込めた想いを述べた。表彰式の様子には下野新聞にも掲載された。なお、キャラクターの名前は「とちまも3兄弟りく・かい・くう」とし、ロゴマークとあわせて栃木地本の広報ポスターや広報グッズ等で活用していく。

栃木地本は2つの公式デザインを通じ、自衛隊の広報活動のさらなる活性化を図っていく。

訓練所感

東部方面航空隊
東部方面ヘリコプター隊
1等陸曹 横山 修



空地協同訓練に参加して

収集及び着陸点の選定・構築を実施し、ヘリボン部隊主力を安全にLZに降着させる任務です。LZ誘導班長として訓練中に強く感じた事は、事前調整の重要性と他職種部隊との連携の難しさです。事前調整では配布された資料をもとにイメージアップを重ね、考えられる問題点を案出するとともに操縦士と認識統一を図り、問題点を解消しつつ安全対策も万全な態勢で

私は2月14日から16日までの間、立川駐屯地及び東富士演習場にて実施された空地協同訓練に降着地域(LZ)誘導班長として参加しました。LZ誘導班はヘリボン作戦において、LZの敵情・気象等の情報

現地向けにきました。現地では普通科隊員で編成された着陸誘導班4人及び航空科隊員で編成されたLZ誘導班4人で索敵・警戒を行いました。着陸誘導班との調整では、会合から出発までの時間が少なかったため、索敵・警戒のほか離脱方法のみの調整となっていました。敵情・気象が常に変化する状況のなか、不測事態が生じるといっても不測事態対処や緊急時の集合点などについて綿密に調整すべきでしたが、今回のヘリボン作戦自体は成功しましたが、不測事態があった場合どう対処すべきか、事前調整ができていない場合はどう行動すべきかについて強く考えさせられました。最後に今回の訓練で得た教訓を生かし「有事の際に今のやり方で本場に通用するのかわかっているのか？」を常に考える習慣を身に付け、訓練にチャレンジしていきたいと思

山梨地本 県内各地で広報活動 グッズ配布しPR

自衛隊山梨地方協力本部は2月から3月にかけて、県内各地において広報活動を実施した。

2月23日はショッピングモールラサウォーク

甲斐双葉において広報活動を実施した。祝日ということもあり、多くの方が来場され、用意していた自衛隊の採用制度について紹介したチラシ入りのマスクや山梨地本マスクを配布した。また同店舗では2月10日から23日までの間、パネル展を実施し、自衛隊全般について紹介した。大学生に対する募集が開始された3月1日には、隊員を見かけたら、お気軽にお声がけください。また事前に山梨地本ホームページやSNSにおいてご案内いたします。是非とも期待していただき、「さー」と語りかけたいです。

神奈川地本 平和と安全を守る自衛隊 中学校で職業講話

自衛隊神奈川地方協力本部横浜出張所は3月18日、横浜市立日吉台中学校で開かれた「職業講話

に協力し、自衛隊の仕事について説明した。本講話は当中学校より生徒の進路指導の一環として自衛隊の仕事伝えたいとの要望を受け実現したもので、自衛隊に興味を持つ1、2年生40人が参加した。

隊の全般説明から始まり、制度説明や所長自身の災害派遣の体験などを話し、最後に日本の平和と安全を守る自衛隊という職業があるということを感じておいてほしいと述べた。

参加した生徒たちは「自衛隊を目指したきっかけは？」、「やりがいは何ですか？」、「自衛隊になるために必要な資格はありますか？」といった質問や、積極的にメモを取り一生懸命に話を聞き、講話終了後は「自衛隊を身近に感じることができた」「色々な職種があることをはじめて知った」などの感想があった。

茨城地本 入隊する日が待ち遠しい 海自横須賀教育隊を見学

自衛隊茨城地方協力本部は2月25日、この春の海上自衛隊入隊予定者及びその家族計18人を引率し、神奈川県横須賀教育隊見学に参加した。

当日は海上自衛隊の概要や教育隊における教育内容の説明に続き、営内のモデルルームや短艇庫等の施設を見学した。特に営内の見学ではきれいに畳まれた毛布やピンと張られたシーツを見て「寝るのがもったいないです」と初めて見る光景に感動していた。

見学終了後、参加者は「入隊したら救難に携わりたい」「入隊する日が待ち遠しい」「子どもの成長した姿を早く見たい」などと語り、それぞれが期待に胸を膨らませた様子であった。

ある！ある！自衛隊



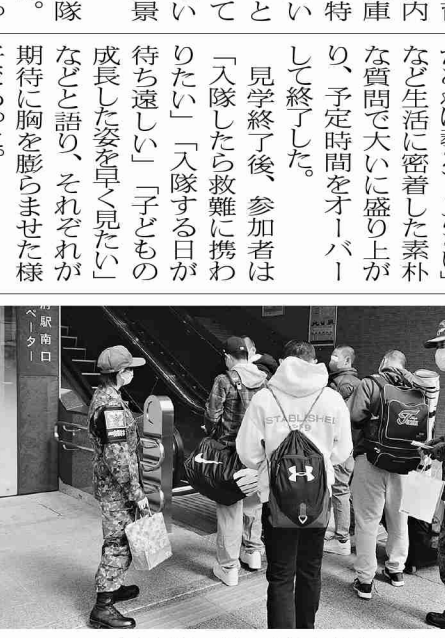
ロープワークを説明する隊員

隊の全般説明から始まり、制度説明や所長自身の災害派遣の体験などを話し、最後に日本の平和と安全を守る自衛隊という職業があるということを感じておいてほしいと述べた。



教育内容を説明する隊員

隊の全般説明から始まり、制度説明や所長自身の災害派遣の体験などを話し、最後に日本の平和と安全を守る自衛隊という職業があるということを感じておいてほしいと述べた。



甲府駅でグッズを配布する隊員

隊員を見かけたら、お気軽にお声がけください。また事前に山梨地本ホームページやSNSにおいてご案内いたします。是非とも期待していただき、「さー」と語りかけたいです。

最先任 上級曹長

「継続は力なり」 第1施設団 芦谷 知宏 准陸尉



令和3年10月15日付で第1施設団兼古河駐屯地最先任上級曹長に上番しました芦谷准尉です。出身地は大分府、勤務歴は平成元年4月に第4施設群(当時は宇都宮駐屯地に所在し、現在は座間駐屯地に所在)に配置さ

れ、施設中隊、群本部で勤務、その間の主な職務として、群本部第3科運用訓練陸曹、第1科庶務陸曹、駐屯地警備幹部等、また中隊最先任上級曹長、令和2年3月

から第307施設隊先任上級曹長(宇都宮)の職を経て、現在の職務に従事しています。

私が現職に上番する際、隷下部隊准曹士に私のモットーである「継続は力なり」という事を述べました。その言葉の意味は「今は実力不足であっても、挫けずに修練を積み重ねれば、いずれ大

成できる」です。私自身、新隊員として部隊に配置されてからの30数年の間、中隊及び群の持続走練成要員、時には監督兼選手として継続的に練成を実施してきました。現在53歳ですが、継続して持続走練成を行ってきたおかげで、今でも若い隊員と一緒に走れるくらい体力は維持しています。(若干身体に力々が来ますが・・・)そして、この言葉を私が担任官として実施している上級、中級及び陸曹候補生課程等履修教育

マイファミリー

関東補給処 総務部 青木 優子 2等陸曹



関東補給処総務部の青木2曹です。家族構成は自衛官の夫、中3長女、小6の

長男とイヌの4人1匹です。私の勤務している部署は、輸送課で処の輸送統制に関する業務を行っています。私は女性自衛官として仕事と育児を両立しながら現在に至りますが、家族の協力・理解なしにはここまで勤務し続けることは出来なかったと思うので、家族には本当に感謝しています。

お母さんへ
お母さんは寝る事が大好きだよ。でも私たちが家族のために寝る時間を削って働いてご飯を作ってくれてありがとう。これからも自衛官として頑張ってくださいね。長女より

おいしい子どもたちに言われる時は少し凹みますが、子どもたちの働く選択をしている以上、仕事を優先せざるを得ない状況に直面することがあります。「お母さんは僕と仕事どっちが大事なの？」と息子に言われ胸が痛む時がありますが「お母さん、早く行かないと仕事遅刻しちゃっよ。早く行きな」と私を気使ってくれる発言もしてくれるようになりました。日頃不憫な思いをさせているにも関わらず、相手を思いやれる優しい子が育ってくれていてありがたいなと感じています。

私も、腹が立つことも日常茶飯事ではありますが、子どもたちの存在は思っている以上に大きく、支えられていると感じることが多々あります。これからも家族で過ごせる時間を大切にしながら、仕事にも励み日々精進していきたいと思っています。

フジヤマ

「憧れの音楽科隊員として」 第12音楽隊 風間 美緒 1等陸士

今月のフェアレディは、第12音楽隊の風間1士です。千葉県山手市出身の風間1士は、昨年3月に入隊、10月に第12音楽隊に配属となり、クラリネット奏者の一人として、部隊の士気高揚のため、また派遣演奏などで聴衆を楽しませるため、日々、演奏技術の向上に励んでいます。

Q1・自衛隊に入隊したきっかけは？
今まで勉強してきた音楽を仕事にしたいと思ったからです。また大学時

代に自衛隊の音楽隊とのジョイントコンサートへ参加し、音楽隊の迫力ある演奏と、隊員の皆さんの演奏服装のかわさきに憧れ、自分もいつか同じステージに立って音楽を届けたいと思ったからです。

Q2・好きな言葉は？
「他人は自分を映す鏡」自分のやった事は必ず自分に返ってくるからこそ、自分が受けて気持ちのいい事をするように

と、教育隊の班長が教えて下さいました。その言葉を大切にしています。

Q3・休日の過ごし方は？
主に駐屯地内の音楽隊合奏場でクラリネットの練習や好きな音楽を聴くなど、自分のスキルアップにつながることをしたり、読書や動画鑑賞をして過ごしています。また近くのショッピングモールで買い物をしてのんびりと過ごしています。

Q4・今後の目標は？
自分の音楽の表現力を向上させることと、陸曹になることです。音楽科隊員としての任務や、使命にとどまるだけではなく、演奏を聴いていただく聴衆の方々の心を動かせる音色を奏でられるようになりたいです。

また音楽だけではなく自衛官としての知識や体力、そして周りへの思いやりの気持ちや、謙虚な姿勢で接することを大切に

今月の東方男児は、第1通信大隊第1中隊に所属する菅野3曹です。菅野3曹は平成28年3月に第117教育大隊(武山)に教育入隊後、練馬駐屯地に所在する第1通信大隊第1中隊に配属され、現在、第1指揮所通信小隊の通信陸曹として勤務しています。

Q1・自衛隊に入隊したきっかけは？
私の祖父が福島県に居住しており、私が大学在学中に発生した東日本大震災の際に、祖父が心配でよくニュースを見ていたのですが、その時、懸命に人命救助や復旧作業を実施して国民を守る自衛官の姿を見て、強い憧れを持ち入隊を決意しました。

Q2・通信科を選んだ理由？
通信科を選んだ理由は、通信組織を構成・維持・運営しています。また、格闘指導官として部隊の格闘練度の向上のために尽力するとともに、格闘

新隊員前期教育隊の際に、班長の中に第12通信隊の方がいて、職種に関する話を伺い、自分自身も通信を確保するためのアンテナを建ててみたいと思って通信科を希望しました。

Q3・現在の職務は？
通信組織を構成・維持・運営しています。また、格闘指導官として部隊の格闘練度の向上のために尽力するとともに、格闘

現在ではできていませんが以前はよく登山をして近隣の温泉に行きリフレッシュしていました。最近は新型コロナウイルス

Q4・休日の過ごし方は？
今年度、格闘検定要領が変更されたため、検定内容を部隊にしっかりと普及し、部隊の格闘練度を向上させるとともに、格闘強化に尽力していきたいと思っています。また営内隊曹として後輩隊員に親身に寄り添い、思いやりの精神で風通しの良い環境作りを努めていきたいと思っています。

Q5・今後の目標は？
今年度、格闘検定要領が変更されたため、検定内容を部隊にしっかりと普及し、部隊の格闘練度を向上させるとともに、格闘強化に尽力していきたいと思っています。また営内隊曹として後輩隊員に親身に寄り添い、思いやりの精神で風通しの良い環境作りを努めていきたいと思っています。

Q6・今後の目標は？
今年度、格闘検定要領が変更されたため、検定内容を部隊にしっかりと普及し、部隊の格闘練度を向上させるとともに、格闘強化に尽力していきたいと思っています。また営内隊曹として後輩隊員に親身に寄り添い、思いやりの精神で風通しの良い環境作りを努めていきたいと思っています。

Q7・今後の目標は？
今年度、格闘検定要領が変更されたため、検定内容を部隊にしっかりと普及し、部隊の格闘練度を向上させるとともに、格闘強化に尽力していきたいと思っています。また営内隊曹として後輩隊員に親身に寄り添い、思いやりの精神で風通しの良い環境作りを努めていきたいと思っています。

Q8・今後の目標は？
今年度、格闘検定要領が変更されたため、検定内容を部隊にしっかりと普及し、部隊の格闘練度を向上させるとともに、格闘強化に尽力していきたいと思っています。また営内隊曹として後輩隊員に親身に寄り添い、思いやりの精神で風通しの良い環境作りを努めていきたいと思っています。

Q9・今後の目標は？
今年度、格闘検定要領が変更されたため、検定内容を部隊にしっかりと普及し、部隊の格闘練度を向上させるとともに、格闘強化に尽力していきたいと思っています。また営内隊曹として後輩隊員に親身に寄り添い、思いやりの精神で風通しの良い環境作りを努めていきたいと思っています。

Q10・今後の目標は？
今年度、格闘検定要領が変更されたため、検定内容を部隊にしっかりと普及し、部隊の格闘練度を向上させるとともに、格闘強化に尽力していきたいと思っています。また営内隊曹として後輩隊員に親身に寄り添い、思いやりの精神で風通しの良い環境作りを努めていきたいと思っています。

Q11・今後の目標は？
今年度、格闘検定要領が変更されたため、検定内容を部隊にしっかりと普及し、部隊の格闘練度を向上させるとともに、格闘強化に尽力していきたいと思っています。また営内隊曹として後輩隊員に親身に寄り添い、思いやりの精神で風通しの良い環境作りを努めていきたいと思っています。



Q1・自衛隊に入隊したきっかけは？
今まで勉強してきた音楽を仕事にしたいと思ったからです。また大学時

代に自衛隊の音楽隊とのジョイントコンサートへ参加し、音楽隊の迫力ある演奏と、隊員の皆さんの演奏服装のかわさきに憧れ、自分もいつか同じステージに立って音楽を届けたいと思ったからです。

Q2・好きな言葉は？
「他人は自分を映す鏡」自分のやった事は必ず自分に返ってくるからこそ、自分が受けて気持ちのいい事をするように

と、教育隊の班長が教えて下さいました。その言葉を大切にしています。

Q3・休日の過ごし方は？
主に駐屯地内の音楽隊合奏場でクラリネットの練習や好きな音楽を聴くなど、自分のスキルアップにつながることをしたり、読書や動画鑑賞をして過ごしています。また近くのショッピングモールで買い物をしてのんびりと過ごしています。

Q4・今後の目標は？
自分の音楽の表現力を向上させることと、陸曹になることです。音楽科隊員としての任務や、使命にとどまるだけではなく、演奏を聴いていただく聴衆の方々の心を動かせる音色を奏でられるようになりたいです。

また音楽だけではなく自衛官としての知識や体力、そして周りへの思いやりの気持ちや、謙虚な姿勢で接することを大切に

今月の東方男児は、第1通信大隊第1中隊に所属する菅野3曹です。菅野3曹は平成28年3月に第117教育大隊(武山)に教育入隊後、練馬駐屯地に所在する第1通信大隊第1中隊に配属され、現在、第1指揮所通信小隊の通信陸曹として勤務しています。

編集後記

残雪が春の日差しに眩しくいらぬ輝きを放っている北の大地に出張で訪れた。春休みにしかかわらず、航空機の客席や街の様子は閑散としていたが、駐屯地では新隊員教育が始まるなど、新年度に向けた準備が着々と進んでいた。ここ数年、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、教育訓練は様々な制約を受け、事業や行事を中止又は変更せざるを得なかった。普段の生活ができていた令和元年度を最後に各種事業のノウハウが途絶えた。前任者も経験していないことを申し受け、それでも担当として前に進まざるを得ない状況は、どこか方面も変わらないように思われる。久方ぶりの事業を実施するに当たり、事前の綿密な調整と関係者のイメージ共有、予行の重要性は今以上に増している。

まん延防止措置が解除されても、新型コロナウイルスの感染リスクは変わらず、ウィズコロナ下としての対応も覚悟する。今日よりも明日、今年よりも来年、未来はきつと明るくなることを信じて。